

特別支援教育の視点からの支持的風土を高める授業づくり

支持的風土とは、認め合い、助け合い、期待をかけ合い、高め合う温かい学級の風土です。特別支援教育の視点から支持的風土を高める授業づくりを考えると大切なことは、様々な「支援」を通して子どもたちの能力を引き出し、子どもたちの自信を育てることです。そのためには、他者から感謝されたり、認められたりする活動や、自分自身の成長を確認する活動を教育活動に取り入れることがとても重要になります。

子どもの多様な能力を引き出し、一人一人が認められる場面を多く設定する

子どもたちには、それぞれ言葉を効果的に使う力、数を有効に使う力、音楽を上手に表現する力、体を使って自分を表現する力、良好な人間関係を築く力など、様々な能力があります。私たちが、このように多様な子どもの能力を評価する物差しを多くもち、生活や学習の中で活躍できる場面を多く設定することで、子どもたちの能力を引き出すことができます。活動の場を設定する際には、どの子どもも活躍できる場を設定して、子ども同士のかかわりやつながり、活動の広がりをつくることのできるよう支援します。そして、活動の中で、子どもたちが身近な大人や友達から感謝されたり、認められたりする経験を積み重ねられるようにします。そのためには、教師による先を見通した仕掛けと、子どもに寄り添った称賛やフィードバックが大切です。

例) ○協力してクイズを解く、ゲームをクリアするなど、授業の中で、協力しながら課題を解決する場面を取り入れる。

○友達がしてくれることをありがとうのカードに書く、物の受け渡しの際に「ありがとう」と言うなど、日常の些細な行動を褒める（認める）。

○運動会、体育祭、総合的な学習で行う様々な体験的活動の後には、友達の頑張りを認め、感謝を伝える活動や、自分自身の成長を振り返る活動を取り入れる。

浜浦小学校で見つけた、「協力しながら活動する姿」



ペットボトルを動かすゲームをする姿



宝探しゲームで見つけた文字の並び替えをする姿



七夕飾りに取り組む姿

上記の学級では授業中、どの子どもの表情も明るく、いきいきとしていました。教師が仕掛けを準備し、適切な称賛を行うことで、子どもたちが自分のできることをみんなのために行い、仲間と協力して活動に取り組むことができているからです。